

かがみあき

中央区教育広報誌 No. 122

ホームページアドレス <http://www.city.chuo.lg.jp/kyouikuinkai/index.html>

中央区の冬の風物詩



粋なまちを走り抜けた子どもたち

中央区では、3学期にマラソン大会を開催している区立学校がいくつかありますが、今回は有馬小学校・幼稚園を紹介しします。

第3回まちかど教育委員会が有馬小学校で開催された2月19日(土)の午前中、学校公開にあわせて「有馬マラソン大会」が実施されました。全学年の中で最も長い距離を走る5・6年生は、学校・水天宮・ロイヤルパークホテルを周回するコース(約一・四五〇m)で、久松警察署の全面的な協力のもと新大橋通りや水天宮通りの車道の一部を閉鎖して行われました。

当日は、揃いの半被姿のPTAや町会の方々や久松警察署警察官の皆さんが、交通整理など子どもたちの安全を見守ってくれました。また沿道では、保護者や地域の方々々が旗を振り、熱い声援をおくる中、子どもたちは顔を真っ赤にしながらいざ走り、小学校の全児童と幼稚園の年長さん全員がそれぞれのコースを完走しました。

松川教育委員会委員長らも「まちかど教育委員会」の前に、ねばり強く走る子どもたちを応援していました。(まちかど教育委員会については6頁に掲載)

東京都教育委員会より表彰されました

平成23年2月5日(土)、東京都庁で、一昨年の12月1日から昨年の11月30日までの一年間における児童・生徒等の優れた活動や善行、クラブ活動等での著しい成果などに対して東京都教育委員会児童・生徒等表彰式が行われました。中央区からは4名および1団体が栄えある受賞となりました。

梶原優希くん(佃島小学校)

平成22年8月に辰巳国際水泳場で開催された第33回全国JOCジュニアオリンピック夏季水泳競技大会「男子10歳以下の部200mリレー」に出場。決勝で梶原くんは第4泳者を務め、2分1秒59という好タイムで優勝を果たしました。

梶原くん右から2番目

今関俊英くん(晴海中学校)

平成22年8月に両国国技館で開催された全国都道府県中学生相撲選手権大会において個人戦(軽量級)準優勝。さらに、10月に開催された全国少年相撲選手権大会では団体戦優勝を果たしました。



今関くん左側

上倉広太郎くん(晴海中学校) 丸岡銀河くん(晴海中学校)

平成22年7月の全日本リトル野球選手権大会で優勝の後、8月に行われた世界大会(米ペンシルベニア州ウィリアムズポート)に日本代表として出場し優勝。上倉くんはセカンドを守り、打順は9番、丸岡くんはサードを守り、打順は1番でそれぞれ活躍しました。



上倉くん

丸岡くん

日本橋中学校吹奏楽部の皆さん

平成21年12月にさいたまスーパーアリーナで開催されたマーチングバンド・パトントワーリング全国大会において、中学生の部・マーチングバンド部門(小編成)で金賞。さらにその中から最優秀の1団体に授与される団体最優秀賞を受賞しました。この受賞は5年連続!なお、昨年12月の大会でも6年連続となる団体最優秀賞に輝きました。



左から梶原くん、今関くん、上倉くん、丸岡くん、久保田さん(前部長)

定年退職を迎えるにあたって



泰明小学校長
泰明幼稚園長

向山

行雄

中央区に幸多かれと願う

中央区には、阪本小学校三年間泰明小学校同幼稚園四年間の都合七年間お世話になりました。

二つの学校で共通して、すばらしい子どもたちや保護者、教職員、地域の方々に出会えたこと、研究発表会を行えたこと、盆踊り大会などの行事を開始できたこと、文部科学大臣の視察をいただいたこと、環境整備が一定程度できたことなどが特に印象に残ります。

泰明小学校では、開校百三十年開園五五周年の機会に恵まれました。なかでも記念行事として実施した銀座パレード、外堀通りを交通規制して銀座一丁目から銀座八丁目まで、約一キロメートルを御輿やだしなど五百メートルの隊列で行進しました。このパレードを実施するに当たっては地域の皆さまの多大なご支援がありました。

私ごとですが、私の父やその弟、



豊海小学校長

河合

美津江

保護者・地域のみなさま ありがとうございました

群馬から上京し、念願の教員になり、大田区、足立区、荒川区、台東区、中央区の五区、十校でお世話になりました。その間、研究発表会を十回、周年行事を六校で経験いたしました。一番心に残りました行事は、豊海小学校の三十周年行事です。平成十八年度に着任した際は、児童数二百十二名と園児数六十四名の校園長

でした。平成二十一年度には専任園長を迎えることができ、平成二十二年度の三十周年には、四百十五名の児童と二百八名の園児が集って、一緒に周年行事を祝うことができました。

中央区でも自然に恵まれたすばらしい環境、明るく元気にたくましく成長する子ども達の姿に、ご家庭のご協力を感じていました。また、「子どもは地域の宝」と温かくご支援いただける地域の皆さまにも、心から感謝いたしております。豊海小学校が名実ともに地域の学校として「ふるさと豊海」の存在感ある学校になれることを願っております。

職務は変わりましたが、佃中と日本橋中で十二年間お世話になりました。日本橋中から教頭として着任した草創期の佃中では、新しい学校への熱き思いに支えられながら、大変盛り上がりのある開校五周年行事を行うことができました。今でも当時の熱気を忘れることができません。日本橋中には、教員、校長という立場で八年間勤めさせていただき、教員としての三年間は、溢れるほどの生徒で、活気に満ちていました。ユニット学習の開発や教育センターでの公開授業は忘れることのできない思い出です。

最後になりましたが、中央区で教職を終えられることに感謝申し上げます。中央区の教育が更に充実されま

ご縁があつて校長として十四年ぶりに再着任したときは、その変貌ぶりに、浦島太郎の思いでしたが、皆さまのお力添えで、何とか日本橋中の伝統を生かした教育を再構築することができたと思っています。



日本橋中学校長

田部井

重雄

支えられ、生かされて

中央区では、教員、教頭、校長と

教師の道を選んだ時から、教師はいつも生徒と共に、を信念とし「学校現場一筋に」三地区六校で三十七年間歩み続けてきたことを誇りに思っています。皆さまに支えられ、生かされながら、有り難い気持ちと、感謝の気持ちで退職を迎えることができ、安堵感と一抹の寂しさを感じています。有り難うございました。「教育の中央区」のますますの発展と充実をご祈念申し上げます。

学校図書館システム全小・中学校に導入

平成21年度から進めてきた区立小・中学校の学校図書館データベース化が、平成22年10月に完了しました。

学校図書館と区立京橋・日本橋・月島図書館がネットワークで結ばれたことにより、データが共有化され、学校図書館から区立図書館の所蔵資料を検索できるほか、直接予約や、団体貸出が可能となりました。現在は週一度、区立図書館の配送車が各学校を巡回して、団体貸出の資料を届けています。

もちろん、団体貸出で学校へ提供した資料は、子どもたち個人にシステムを使って貸し出しすることも可能です。

先日、京橋築地小学校の学校図書館を訪ねてみました。ここでは、子どもたちが楽しそうに本を選び、システムで簡単に貸し出しをしてもらっている姿が見られました。また、自分の図書カードのバーコードを圖書ノートの表紙に貼り、ページを開くとこれまでに読んだ本のタイトルすべてを書いて読書の励



京橋築地小学校学校図書館のようす

みにしている子もいました。利用しやすくなった図書館を活用して、多くの子どもたちがますます本を好きになってくれるとうれしいです。

他にも学校図書館では、図書館担当の先生や図書館指導員が、おすすめ本の展示をしたり、読み聞かせした本を紹介するなど、各学校でさまざまな読書活動が行われています。今回の学校図書館システム導入が、読書活動を活発化する基盤になればと期待しています。

第2回中学生「東京駅伝」大会

中央区代表候補選手たち、熱走！準備完了

お知らせ

東京都内の中学2年生を対象に、中学生のスポーツの振興及び生徒の競技力等の向上を図るため、区市町村ごとに男子、女子代表各1チームを編成して競い合う区市町村対抗駅伝大会が開催されます。

昨年は男子が51チーム中36位（2時間33分33秒）、女子が50チーム中35位（1時間58分43秒）でした。今年も総監督の晴海中学校 渡真利善校長先生を先頭に「ザ・中央区チーム」を創り、武蔵野の空の下を全力疾走します。応援よろしく願います。

【日程】
平成23年3月21日(月・祝日)
女子スタート:午前10時、男子スタート:午後1時
【会場】
味の素スタジアム・都立武蔵野の森公園
特設周回コース(京王線 飛田給駅)
【競技形式】
区市町村対抗駅伝競走
(総合距離 男子:42,195km、女子:30km)

候補選手名(男子:20名 女子:18名) ※敬称略

	男子選手		女子選手	
	銀座中	女子選手	女子選手	女子選手
銀座中	細越 裕希	東海林果歩	山崎 海渡	大森 夏帆
	浪越 健明	斉藤 萌奈	有田 賢明	廣口 瑛理
	湯川 陽太	石川 美波	中村 毅	万代 和恵
	鈴木 健太	岡 美南	嘉数 昇平	—
	河嶋勇太郎	曾田 芳実	加藤 浩太	—
	星 陽登	菊池 亜美	福田 翔	中田 悠介
佃中	—	河村 佳美	伊藤 太一	伊藤 太一
	—	倉澤 奏子	中村 聡志	中村 聡志
	山崎 海渡	小林 由佳	鈴木 航平	鈴木 航平
	有田 賢明	八代麻悠子	山口 大智	山口 大智
晴海中	中村 毅	佐藤智恵美	大貫 駿介	大貫 駿介
	嘉数 昇平	大貫 沙英	國井 勇太	國井 勇太
	加藤 浩太	—	青木 貴宏	青木 貴宏
	福田 翔	大森 夏帆		
日本橋中	中田 悠介	廣口 瑛理		
	伊藤 太一	万代 和恵		
	中村 聡志	—		
	鈴木 航平	—		



褒めて伸ばす。 親子力アップで 楽しい子育て

平成22年12月4日(土)、人気漫画「ドラゴン桜」の指南役としても活躍された教育評論家の親野智可等さんの家庭教育講演会が教育センターで行われました(中央区地域家庭教育推進協議会主催)。親野さんは、「親子力アップで楽しい子育て」と題して、23年間の教員生活から得られた実践的な教育論を、ときにユーモアを交えて話されました。会場には子育て中の方や教育に関心の深い方など、73名が集まり、熱心に耳を傾けていました。

自己肯定感と他者信頼感

「叱らない親が増えてきたから、子どもがだめになった」とよく言われますが、私の知っている現実はそのうちありません。朝起きたときから親に叱られ続ける子どもがいくかに多いことか。「いつまで寝ているの!」「起きたらボーっとしない!」「早くごはん食べなさい!」「ごはん食べるときはテレビを見ない!」などなど……。程度の差こそあれ、日本の親は日々子どもを叱っています。私たちは「叱る」という言葉を何気なく使っていますが、本来の意味を勘違いしています。広辞苑では、「声を荒立てて咎めること」とあります。別の辞典には「感情的に強く諫めること」と書かれています。つまり「叱る」とは感情的かつ否定的なことなんです。「言い聞かせる」とか「説得

する」などは、「叱る」とは似ているけれど非なるもの。それを多くの親たちは一緒くたにしている、子どもたちは親の口から飛び出す否定的な言葉を、毎日シャワーのように浴びています。もちろん、子どもが人として許されないことをした場合、これは感情的に叱ることも必要です。しかし、日常的なこまごまとしたことを「叱る」のは、百害あって一利なしです。

私が600人以上の子どもの教えられた経験から得た結論ですが、親から否定的な言葉を多く言われた子どもは、自分に自信が持てなくなります。「ボクはだめな人間だ」と思ってしまうんです。そして自分に自信を持てなくなれば、自己肯定感を持てなくなります。言い換えれば「自己イメージが悪くなる」こととなります。自己イメージとは、自分にとっての

設計図のようなもので、人は「私はこういう人間だ」と思ってしまうと、長い時間をかけてそのような自分を創ってしまいます。つまり「私はだめだ」「私はがんばれない」という自己イメージを持つと、実際にそうなるてしまうのです。

さらに、否定的な言葉が子どもに与える負の影響はもう一つあります。親に否定的な言葉を言われると、当然、子どもは不愉快になります。それが積もり積もって相手への不信感につながります。子どもだって頭では、「親はボクのために叱っている」とわかってはいます。でも無意識の部分で「ボクは嫌われている」という気持ち湧き出てきます。この気持ちは無意識なので抑えようがなく、いざ親に対する不信感となって表れてきます。親に対して不信感を抱くと、友だちや先生との関係、その

他の人間関係の土台が不信感に支配されてしまいます。

そもそも親はなぜ、自分の子どもにこうも無遠慮な言葉を使ってしまうのでしょうか。おそらく、子どもが苦手なことをなんとか克服させたいという気持ちから、「子どものうちに何とかしよう」と思っているのでしょう。そして、多くの親は「子どものうちなら直る」と勘違いしています。たしかに子どもは、ピアノや英会話、一輪車などはどんどん上達します。でも、これは子どもの脳の構造がそれら技能の吸収に適しているからであって、苦手なことを克服するのは吸収力ではありません。苦手なことを克服するにはモチベーション、工夫、努力が必要です。苦手なことはむしろ大人になってからの方が直ります。なぜなら、それには将来を見通す力や内面からの反省が必要だから

らで、子どもは本質的に将来を見通すのが苦手です。

子どもが自己肯定感と他者信頼感の2つを持てるようにしてあげれば、その子がやる気を持ったときよい方向に伸びていきます。その2つがないと反社会的な方向に進みかねません。

よい親子関係を築くための工夫

子どもが苦手なことを自然に出来るようにするための工夫として、親がお膳立てをしてあげる、あるいは子どもと一緒にしてあげることが挙げられます。私はこれを、「褒めるシステム」と呼んでいます。例えば、子どもに歯磨きをさせるための工夫として、食事のときにお箸と一緒に歯ブラシを出してみます。そうすると、歯を磨く確率が飛躍的に上がります。そして、子どもが歯磨きをしたら褒めてあげます。一週間くらい続いたら、歯ブラシを出すのをやめてみましょう。それでも子どもが自ら歯を磨いたら、また褒めます。磨いていなければ、もう一度お箸と一緒に歯ブラシを出すことです。子どもが出来るといふような工夫をし、出来たら褒める、これを繰り返すことが大切ですね。

次に、子どもに宿題をさせる工夫として、あるおかあさんが実践した

例を紹介します。子どもは学校から帰ってきたら宿題をせずに、ポーンとカバンを投げて、すぐ遊びに行ってしまうんです。そこでおかあさんは、玄関にカバンが2つ入るくらいの大きさの箱を置きました。子どもが帰ってきたら、遊びに行く前にカバンの中身をその箱に全部出させます。すると、子どもはこの動作により自然に目の前に宿題があることが見えることとなります。たったこれだけのことで、子どもは宿題をやるようになったそうです。目に見える状態だと、子どもは「これだけやればいい」と見通しがついたので、取り掛かりやすくなるんですね。

私が現役教師のときにやっていた「とりあえず一問方式」も効果的です。それは、帰りの会で「帰る前に宿題を1問だけやったら帰っていいよ」というもの。これも前の例と同じく、1問やると宿題全体の見通しがつくので、やる気になるんですね。

褒めて伸ばす親子力

多くの子どもたちは、無意識のうちに「勉強すると(親に)叱られる」と思っています。「勉強しなければ叱られる」ではなく、「勉強すると叱られる」ですよ。「え?」と思うでしょう。なぜかと言うと、親は子どもの宿題を目にした途端、「何この字は?」「こ

んなのもできないの?」と言ってしまふからです。こんなことが繰り返されると、子どもの中に「勉強すると叱られる」という思考回路が形成されます。これでは勉強するのが嫌になるのは当たり前です。

そこで、勉強すれば褒められるという思考回路を親が作ってあげればいいんです。そのためには、とにかく何でも褒めればよい。でも、子どもの宿題は、全体を見ているととても褒められたものではありません。だったら「部分」を褒めるんです。漢字の書き取りだったら、たまたま上手に書けた文字が一つくらいは褒めらる。例えば、「この『道』という字は上手いね!」と褒める。一字でさえ褒めるのが難しかったら、もつと部分に迫って、「この字の『しん』によろしくね!」というように。宿題の取り掛かりと終わりに子どもを褒めて、「勉強が楽しい!」「私はたくさんできる!」、そういうイメージをつけてあげてほしいと思います。

目をつぶる親になろう

工夫してもうまいかないときは、改善して続けることが大事です。それでもうまくいかないときは、目をつぶることも必要です。親が目をつぶってあげると、子どもは

その瞬間から安らかな気持ちになります。子ども時代を安らかな気持ちで過ごす、自己肯定感と他者信頼感が生まれます。ですから短所には目をつぶって、その代わり子どもの得意なところを持ち上げてくださ

い。得意なところを持ち上げると全体が上がります。親が褒めつつバックアップしてあげると、子どもはもつと得意になって、よいことがたくさん起きます。子どもは一つでも「ボク、これに自信がある!」というものがあると、エネルギーが湧いてきて、「これも出来そう、あれも出来そう!」となります。

どうか褒め上手な親になって、子育てを楽しんでください。そうすると、とてもよい親子関係が築けます。よい親子関係とは、親が子どもの「やる気の最前線を応援する」とことで、きつと実現しますから。

無料メールマガジン

「親力で決まる子供の将来」のご案内

教育系メールマガジンとして最大規模を誇る親野さんのメールマガジンは23年の教師経験を生かした「子育て」「しつけ」「勉強法」「家庭教育」について具体的な提案がされています。この無料メールマガジンの登録と解除は下記のとおりです。(「親力」で検索してください)

<http://www.oyaryoku.jp>

教育委員コラムリレー 入学式・卒業式の思い出

今年度の「教育委員コラムリレー」は、学校の行事の思い出をテーマに、教育委員の方たちにご自身の子ども時代を振り返っていただけます。

【第8回】教育委員長 まつかわ あきよし 松川昭義さん

春と言えば出会いと別れの季節です。
入学式や卒業式での思い出はありますか。

印象深いのは中学の卒業式です。私は生徒会長だったので、卒業式で答辞を読みました。2年生のときは送辞を読んだので、送る方、送られる方、両方のメッセージを読んだことになりますね。

中学時代を振り返って、
特に印象深い出会いはありましたか。

私は、先生に好かれるタイプで、思い出深い先生が何人かいます。中学1年のとき、干川先生から吉川英治の『三国志』を勧められ、友人たちと回し読みをしたことで本を読むことが好きになりました。そして中学3年のときには干川先生が担任となり、今度は五味川純平の『人間の条件』を勧めてくれました。私は干川先生との出会いで本当に読書が好きになり、特に吉川作品のファンになりました。

それから英語の友野先生。先生は、中学生の私から見てもどこかにやけた感じがあって先生らしくない人。でも、なぜか私は好きで、何かあるごとに友野先生に相談にのってもらっていました。ある時、成績が伸び悩み、先生に相談すると、「勉強には休みが必要なときがある。1週間でも10日でも休め」と。最初は驚きましたが、実践してみると心が自然が軽くなりました。担任の先生は、「勉強しろ、勉強しろ」というタイプでしたから、友野先生のアドバイスは妙に印象に残っています。



＜プロフィール＞
中央区立明石小学校・文海中学校の卒業生。平成20年12月1日から教育委員に就任。現在、中央区少年少女剣道教室指導員、京橋スポーツ少年団「剣道」団長を務める。「子どもから学ぶことが多い。」「師弟同行」です。」と語る。

入学式についてはいかがですか。

厳しい受験勉強の結果、勝ちとった高校の入学式は期待にあふれていました。今まで勉強したので、「これから青春を楽しむぞ!」と（笑）。おもしろいのは友だちに対する見方が変わったこと。中学のときは、成績を廊下に張り出されていたので、それが刺激になり友人に対しても「負けたくない人＝ライバル」という傾向が強かったのですが、高校は大学の付属ということもあり、成績ではなく、個々の「持ち味」を見るようになりましたね。

松川さんは昨年10月に教育委員長に就任なさいました。今後の抱負をお聞かせください。

挑戦したいことはたくさんありますが、『かがやき』にも関連したことをひとつ。教育委員会はさまざまな活動をしていますが、そのプロセスをもっと丁寧に発信する必要があると思っています。情報発信を密にすることで、学校や地域の方たちとの相互コミュニケーションが深まると考えていますので、広報活動に力を入れていきたいですね。



高校入試の合格発表直後
大村君(上)松川委員長(中)
高橋君(下)

教育委員の主な活動状況

＊平成22年第4回持ち廻りによる教育委員会(平成22年11月24日)
(可決した議案)
・地方教育行政の組織及び運営に関する法律第三十八条に基づく内申
＊月島第二小学校研究発表＜中央区研究奨励校・東京都人権教育研究推進校＞(平成22年11月25日)
＊平成22年度第2回教育委員と学校評議員・学校関係者評価委員会委員との意見交換会＜京橋築地小学校＞(平成22年11月26日)
＊日本橋小学校・幼稚園周年行事＜20周年＞(平成22年11月27日)
＊平成22年第5回持ち廻りによる教育委員会(平成22年11月30日)
(可決した議案)
・中央区立幼稚園教育職員の勤労手当に関する規則の一部を改正する規則の制定
＊泰明小学校研究発表＜中央区研究奨励校＞(平成22年12月3日)
＊平成22年第12回教育委員会定例会および研修会(平成22年12月8日)
(可決した議案)
・中央区立幼稚園教育職員の地域手当に関する規則の一部を改正する規則の制定 ほか
(報告事項)
・平成22年第4回区議会定例会(11月議会)における一般質問 ほか
＊月島第二幼稚園研究発表＜中央区研究奨励校＞(平成22年12月10日)

＊平成23年第1回教育委員会定例会および研修会(平成23年1月12日)
(可決した議案)
・平成23年区立学校の卒業式等の日程 ほか
＊全国中学生創造ものづくり教育フェア(平成23年1月22日)
＊中央区教育会中学校研究発表＜保健体育・英語・理科＞(平成23年1月26日)
＊平成23年第1回持ち廻りによる教育委員会(平成23年1月27日)
(可決した議案)
・中央区青少年委員の辞任 ほか
＊城東小学校研究発表＜中央区食育推進モデル校研究校＞(平成23年1月31日)
＊中央区教育会幼稚園研究発表(平成23年2月2日)
＊全国公立小学校・東京都小学校児童文化研究発表大会(平成23年2月4日)
＊平成23年第2回教育委員会定例会および研修会(平成23年2月9日)
(可決した議案)
・平成23年度中央区教育委員会の教育目標 ほか
(報告事項)
・平成23年度幼稚園預かり保育の園児応募状況 ほか
＊晴海中学校研究発表＜中央区研究奨励校＞(平成23年2月18日)
＊平成22年度第3回教育委員と学校評議員・学校関係者評価委員会委員との意見交換会＜有馬小学校＞(平成23年2月19日)
＊月島第二小学校研究発表＜全国小学校道徳教育研究会＞(平成23年2月25日)

見て、聞いて、感じる… 第3回まちかど教育委員会開催

2月19日(土)、教育委員と学校評議員・学校関係者評価委員会委員との意見交換会(まちかど教育委員会)を開催しました。今回は有馬小学校・幼稚園が会場です。齋藤校・園長先生をはじめ学校の先生方から平成22年度を振り返って、生活指導・特色ある教育活動・校内研究・幼小連携・地域との連携などの報告がありました。

引き続いての意見交換会では、参加された各委員の方々から「2年間不登校ゼロは本当に評価ができます。」「“知・徳・体”特に、あいさつを中心とした“徳”の分野での子どもたちの成長が喜ばしいです。」「午前中の有馬ラソンは運営は大変だと思いますが、子どもたちにとって生涯忘れることのない楽しい思い出になるでしょう。ぜひ続けて欲しいです。」「有馬ラソンでの子どもたちのあきらめない姿に感激しました。」「有馬小は名実ともに“地域とともに歩む学校”。地域も学校を本当に大切にしています。」などの意見のほか、「総合的な学習の時間が縮小されるということですが、地域との関わりに影響は出ないのでしょうか。」というご質問や、英語の授業や土曜日への授業の拡大など

先生方の多忙な指導などについての質疑も活発に行われました。

学校からは「箱崎シティエアターミナルの歩道橋を通学路にしようとしたときに、地域の方々が防犯対策として登校時の“見守り役”をかってでいていただき、本当に感謝しています。」とお礼のことばがありました。予定時間をオーバーするほどの充実した意見交換。参加者全員が地域に根ざした教育の大切さを共感できた時間でした。



小学校・幼稚園の改築だより①

現在、中央と明石の両小学校・幼稚園では予定どおり改築工事が進んでいます。区では工事期間中のこの機会であれば子どもたちが体験できないさまざまな取り組みを進めています。

建設業者の協力による学校の設計から完成までを学べるわかりやすい副読本づくりや、工事の進捗に合せた現場見学会の開催、工事フェンスへの子どもたちの絵や地域の変遷がわかる写真掲示も検討しています。また、建設業者の方にも地域美化活動等にも積極的に協力してもらっています。

今後とも、安全第一に新校舎完成を楽しみにしている子どもたちのため、平成24年7月の完成をめざし改築を進めてまいりますのでご理解ご協力をお願いいたします。



明石小学校クリーンデーに参加する子どもたちと建設業者(平成23年2月1日撮影)

「あふれる自然に春の訪れ」 柏学園を開放!

4月2日(土)・3日(日)

毎年、桜の咲く時期に区民の皆さんに開放している柏学園は、中央区から電車で約一時間、豊かな自然に囲まれた校外学園です。

陽春の訪れとともに草木が芽吹き、花がそこかしこに咲きはじめています。

春いっぱい柏学園へ、皆さんと一緒に過ごしてください。



【日時】4月2日(土)・3日(日) (雨天実施)
午前10時～午後3時30分
【会場】中央区立柏学園
【交通機関】JR柏駅下車東口、徒歩25分
阪東バス「戸張」行「柏学園前」下車徒歩5分
または「大津ヶ丘団地」行「第五小学校」下車徒歩10分
※ご来園の際は、公共交通機関をご利用ください。

※問合せ先 学務課保健給食係 ☎(3546) 5516